

研究会報告

物流研究会

1. 2009 年度秋季研究会

(1) 日時：平成 21 年 10 月 17 日(土) 13:00~14:50

(2) 場所：水産大学校（講義棟 NO.26 教室）

(3) 講演内容

一般講演が 2 つ行われた。

「港背後圏の空コンテナ回送における折りたたみコンテナのコスト削減効果」(含む、オランダでの在外研究報告)

新谷浩一(大島商船高専)

背後圏の空コン回送コストを削減できるのかという問題について、折たたみコンテナと標準コンテナの回送コストを比較した整数計画モデル(決定変数:コンテナフロー)から、背後圏をシナリオと数値実験の結果を踏まえて検討がなされた。折りたたみコンテナは、港背後圏での空コンテナの回送コストを削減できる。この効果が大きくなる条件として、回送シナリオ(荷主間での直接的な空コンの融通、荷主による折りコンの折りたたみ組み立て作業)と状況(内陸デポ-港間の距離大、輸出入量に大きなインバランス)という点についてオランダでの在外研究の状況も交えながら報告された。

「フェリー・RORO 船航路の現状と課題ーヒアリング調査を中心としてー」

松尾俊彦(東海大学),永岩健一郎(大島商船高専)

フェリー・RORO 船航路の現状と課題を探るために、まず先行研究をモーダルシフトの視点からの研究(輸送機関・経路選択)、市場面からの研究、流通・港湾など面からの研究としてその研究内容について紹介がなされた。本研究では、国内航路と国際航路について、実際のヒアリング調査についてその特徴を確かめた。特に国際航路については、フェリーと RORO 船は競争関係(対象はトレーラ、トラックのみ)にあるものの、フェリー・RORO 船とコンテナ船は競争関係にないといった特徴が示された。ま

た、国際航路については、グローバル貨物ではなく、2 国間のローカル貨物が主体である点や、RORO 方式の荷役を考えれば、シャーシの乗り入れ自由化が鍵である点を検討していく必要があることが報告された。

(4) 研究会総会

1) NAVIGATION の執筆について

運営委員会で確認された(1)IC タグ関連、(2)港湾と IT 関連、(3)港湾関連、(4)港湾関連の論文レビュー、(5)地方港湾関連の 5 つの関連項目で執筆することについて報告があった。

2) 来年春の物流講習会について

他の学会に開催通知をだして積極的に働き掛けることになった。候補者については適任者を募集を行なうことになった。

3) 研究会の在り方について

会員が増えないため、今後の研究会の在り方について引き続き検討することが確認された。

2. 2009 年度秋季運営委員会

(1) 日時:平成 21 年 10 月 17 日(土) 12:00~13:00

(2) 場所：水産大学校（講義棟 NO.26 教室）

(3) 議題

1) 来年春の物流講習会について

他の学会に開催通知をだして積極的に働き掛けることになった。サイト本体(nifty.com)に移行するまでの暫定的なホームページの運用についても検討することになった。

2) navigation について

NAVIGATION の執筆者は次のように決まったことについて報告があった。

(1)IC タグ関連

渡部大輔(東京海洋大学)

(2)港湾と IT 関連

西口美津子(港湾職業能力開発短期大学校)

水上裕之(横浜港運協会)

(3)港湾関連

今井昭夫(神戸大学大学院)

(4)港湾関連の論文レビュー

西村悦子(神戸大学大学院)

(5)地方港湾関連

松尾俊彦(東海大学), 永岩健一郎(広島商船高

専), 新谷浩一(大島商船高専)

3) 予算について

本研究会の予算(研究会補助金)について検討した結果, 次回の交通費にあてることとして, 繰り越すことになった.

(幹事:土井義夫)